

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100299		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム星の家きらり(1階)		
所在地	岡山県岡山市中区倉田576-8		
自己評価作成日	平成 24年 6月 19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosvoCd=3390100299-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24年 8月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様を担当制にし、ご家族との連携を各スタッフがとれるようにしました ・日中の過ごし方を充実させる努力をしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>サービス理念である「一人ひとりのその人らしい生活を目指す」という目標を掲げ、実現に向けて努力している。104歳を筆頭に利用者の高齢化とともに日常的な介護も増えていく中で、その人にとって必要な介護を検討し、利用者本人がマイペースに過ごしていける生活を支援し続けている。食事は手作りにこだわっており、訪問当日は皆の好きな散らし寿司。すし桶で酢飯を混ぜる係、うちわ係、盛り付け係など利用者の手つきも馴れており、味見をしながらてきばきと調理を行った。利用者が自分の得意分野を生かしながら笑顔で行ってもらえるよう、職員もうまくサポートしていた。</p> <p>運営推進会議では利用者の日常生活をDVDに編集し、参加者である家族や地域の方々に見てもらっている。事業所での生活を表情や声、動作を見て頂くことで、写真よりも分かりやすく伝えることができる。</p> <p>また、前年度の目標でもある避難訓練への地域住民の参加や消防署との連携も確実に実施している。スプリンクラーの設置も完了し、防災意識の高さも感じる事ができた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議を増やし、問題点があれば、その部署だけでなく、全体の問題ととらえ、全職員に知ってもらえるようにしている。	介護の『理想』を『現実』に変える努力を惜しまないという行動理念を中心として、一人一人の利用者に合った生活を支援できるよう努めている。新人オリエンテーションでは理念をきちんと説明し、理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物・ドライブなど近くを散策することや毎年恒例の桑野ふれあいセンターの花見では、協力的に接してもらっている。	町内会に入会し、回覧板を回したり、グリーン作戦やお祭りへの参加など積極的に行っている。近隣のスーパーで買い物をしたり、散歩をすることも多い。また、中学校の職場体験の受け入れも行っており、触れ合いの機会となっている。	近隣の保育園や小学校との交流を増やし、地域で福祉を伝える役割をして頂くことを願っています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会を催すと民生委員さんが手品を披露してくださったり、地域の方たちが大正琴の演奏に来てくださったり、状況をふまえての関係ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アンケートに答えてくださるご家族の意見を参考にし、職員で話し合い、悪いところは改善している。3ヶ月ごとにまとめ、DVDも作成し、ご家族にご覧いただいている。	3ヶ月に1回、開催している。町内会長・副会長・民生委員、公民館館長、家族等が参加している。避難訓練や消火訓練等を会議に盛り込み、参加しやすい会議となるよう工夫している。利用者の様子等をまとめたDVDを使用し事業報告を行うことで、参加者が分かりやすいよう工夫している。	運営推進会議はできるだけ2ヶ月に1回の開催を目指し、年間計画などの立案を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとの連絡もとりつつ、協力関係を築く努力はしている。	ふれあいセンター内にある地域包括支援センターへ連絡し、運営推進会議への出席依頼や情報交換を行っている。	外部評価結果や運営推進会議の議事録を窓口へ持参し、市町村担当者や地域包括支援センターに現状を伝え、より深く連携ができることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドの柵を1本はずすことで拘束を解除し、ご本人が歩けると思っている方1名にセンサーマットで対応している。	交通量の多い道路に面しており、危険防止のため玄関の施錠は行っている。マニュアルを作成しており、できるだけ身体拘束をせずに支援できるよう工夫している。職員会議で身体拘束について研修し、職員の認識を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どうということが虐待にあたるのか職員同士で話し合い、お互いに注意を払い防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今はその制度を利用、活用される方が入居されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には、書面で通知し、面会に来られたときなどに、さらに詳しく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートや交換ノートを作成し、面会時に話し、コミュニケーションをとっている。	面会簿の中に連絡帳を用意しており、家族からの希望や要望を書いてもらったり、事業所からの連絡を書き、お互いに行き来できるようにしている。年1～2回、家族に向けてアンケートを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務報告書での意見や直接上司へ相談することもある。	職員は月末に業務報告書と自己評価を提出しており、その中で意見や提案など直接上司に伝える事ができる。施設長会議を始め、職員の意見や取り組みを把握したり、。内部研修への取り組みなど検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心のケアや思いやりをもって接することができる人間関係を作っていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量の把握。研修の機会や勤務調整をしながら、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での勉強会や見学など、相互の交流はいろいろなどで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりと向き合い、信頼関係を深めている。不安・不穏を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご希望にそったケアができるように、よく話し合うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を聞きたいか何を必要としているか、支援を見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間一緒に過ごす者として、冗談を言ったり、昔の話を聞いたりして、信頼関係を築いていきたいと思い努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が今何を訴えているか気持ちを把握し、ソフトにご家族に伝えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢になると馴染みの方も少なくなり、知人の方が面会に来られるのは、ごく少数のご利用者様になった。	近隣の方の入居が多い為、近所の友達が訪問してくれたり、友人との手紙のやり取りをしている方もおられ、今後も継続できるよう職員が支援している。また、家族の協力のもと、馴染みの店や自宅へ外出することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	喫茶や食事のときに、スタッフが同じテーブルで過ごしたり、話をしたりして、近くに座っているご利用者様の橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも、病院に入院中であれば、お見舞いに伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情の変化を見逃さないように努めている。	日中、なかなか話せない利用者に対して、夜間帯に一对一で話せる環境を作ると、自分の思いや意向を話してくれることもある。また、日常会話の中から、本人の思いに気付くことも多く、申し送り等で話し合い、職員が情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどんな暮らしをされ、どう生きて来られたかを知ることは、関わっていくなかでとても大切なこと。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできること、したいことを大切にして、生活リズムを把握していけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、モニタリング、カンファレンスを行い、一人ひとりの生活改善に努めている。	ケース会議で本人の出来ている事、出来ていない事などアセスメントのチェックやモニタリングの中での気づきについて担当者を中心に職員間で意見交換を行い、介護計画を作成している。本人の意向の欄にはできるだけ本人の言葉をそのまま記入するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があれば、申し送りにて職員に知らせ、情報を共有している。その中で、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方に住まわれている方やなかなか休みがないご家族に代わり、病院の送迎、付き添いなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、町内会長さん、副会長さん、公民館長さんも来所していただき、いろいろな意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何かあれば、何時でも駆けつけくださることがスタッフにとっても大きな気持ちのより所になっている。	週1回、往診、訪問看護がある。24時間いつでも医師に連絡、相談することができ、緊急時には夜中でも往診にでてくれるなど協力関係が築けている。現在104歳の利用者があり、毎日訪問看護による健康管理が行われるなど、一人一人にあった対応を検討し実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受けている。ご利用者様の話し相手にもなったださっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常に医師やソーシャルワーカーとも情報交換をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をお聞きし、こちらでできる限りのケアについて説明している。	かかりつけ医の協力もあり、本人や家族の希望があれば看取りまで行いたいと考えている。家族の協力が一番必要なので、その都度話し合いの場を持ち、家族の意思を確認している。ターミナルケアに向けて内部研修を行い、職員のスキルアップやメンタル面のフォローをしていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話の近くにマニュアルを置き、救急対応についての勉強はスタッフ全員に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月も町内会、民生委員さんが施設に集まり、消防署より避難訓練と消火訓練の指導を受け、地域、町内会との協力体制はできている。	年2回、避難訓練を実施している。地域の消防署の方にも参加してもらい、消火・通報訓練を行っている。また、運営推進会議や家族会を同時に行うことで、地域の方や家族も参加してもらえるように工夫している。H23年11月にスプリンクラー設置している。	地域の方や家族の参加が増えており、とても素晴らしいと思いました。水害が起こった時には近隣の病院と連携を図ることができるよう話をしていることも含め、防災意識の高さを感じました。今後も継続して頂けるよう期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	たとえば、居室に戻るのか、リビングでテレビを見るのか、一人ひとりにお聞きし、または行動で意志決定していただく。居室に入るときには、ノックをし、ドアを開けている。	利用者のペースに合わせた食事・トイレ介助等を行い、個々の尊厳を傷つけない対応に努めている。今年は外部から講師を呼び、グループ全体で接遇に関わる講習会を行い、選ばれる施設になるためにもよりよいサービスを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし、誘導するのではなく、「どちらにしましょうか？」とお聞きしている。たとえば、飲み物、洋服など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新しく入居された方にも就寝時間と起床時間をお聞きし、施設の型にはめるのではなく、一人ひとりのペースに添って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性にはひげそり、女性には髪をといたり、目やにがついていないか確認したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	笹がきごぼう、もやしの芽きりなど、できることはしていただいている。お寿司の酢あわせは特に喜んでくださる。	食事のバランスや彩りも絶妙である。当日は皆が好きな散らし寿司。利用者も職員と一緒に食事の準備や味付け等わきあいあいとおしゃべりしながらお手伝いをしている。利用者が役割をこなせるよう、職員がさりげなくフォローしている姿も見られた。家庭菜園でとれたきゅうりやトマト、ピーマンなど食卓に上がる事も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高血圧の方には、味は薄めに、糖尿の方には、糖分控えめと、一人ひとりの状態に合わせた食事の味や量に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯がある方には、まずできるところまで歯ブラシで磨いていただき、その後、スタッフが磨き残しはないかフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後、喫茶の前後にトイレ誘導及び声かけを行い、失禁・失便を少しでも減らせるように支援している。	タイミングを見計らいながらトイレ誘導や声かけをすることにより少しでも失敗を少なくし、布パンツで過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握、乳酸菌飲料、ご家族が持ち込まれる「青汁」「センナ茶」など、ご利用者様一人ひとりにあった対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は午後としているが、入浴の声かけを早い時間にお伝えすると、自分なりに準備をされている方もいるので、一人ひとりにあった声かけ、入浴介助をしている。	週2回の入浴を基本としているが、体調や本人の希望に合わせている。入浴時間は職員が1対1で関わる事が出来る場となっており、利用者との会話を楽しんでいる。失禁があった時にはシャワー浴など対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢のご利用者様が多いため、特に昼食後は、ひと休みのため、帰宅される。午後3時の喫茶の時間には、リビングに出てきていただき、体操やおやつを召し上がっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	改善が見えなかったり、その副作用があったりした場合、すぐに、主治医に連絡をし、様子を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こちらからお願いをするとお手伝いや買い物など喜んでしてもらっている。「私にできることは言ってちょうだい」と言ってくださるご利用者様も多い。「とても助かっていること」を声にだして感謝する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「何がしたい」とか「どこへ行きたい」と話の合間に聞いてみる。すぐに行ける場所と時間がかかるところもあるので、家族、スタッフと相談しながら支援している。	週1回、近くのスーパーに買い出しに出かけている。ドライブを楽しんだり、近隣を散歩したりしている。季節の行事(花見等)やイルミネーションツアーと称して夜のドライブを楽しむこともある。家族の協力により外出される方もおられる。	利用者の高齢化、重度化により、本人の希望に添った外出支援が困難になってきていると伺った。誕生日には本人の希望を聞き、外出するなど特別な日を作ることでより利用者はもちろん、職員も達成感を得られるようにしてみてもどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもたれている方はいるが、ご自分で使用はされない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけていただけるし、手紙もだせるように支援しているが、今のご利用者様はそこまで希望されていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには、手作りの切り絵や貼り絵などを展示し、写真も壁に貼っている。時々立ち止まりご覧になっている。	机やテレビ、ソファの配置に気を付けている。ホールでは利用者個々のスペースを確保し、音楽をかける等工夫し、居心地良く過ごせる空間作りをしている。壁面には職員と一緒に作った花火やお花の作品が飾られており、季節を感じることができる。キッチン是对面式である上に、スペースも広く、見守りに適している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が空いた席に座れるように誘導したり、大きなテーブルに人が集まれるようにしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机を持って来られたり、鏡台を置いたりされ、昔から使用されていたものを居室に置かれているご家族が多い。	タンスや仏壇、鏡台など馴染みのあるものを持ってきて頂き、配置している。箸や茶碗も自宅で実際に使用していた物を持って来てもらっている。窓からは春になるとれんげ畑が見え、見晴らしがいい。おしゃれな帽子やマフラー、はおりもの等がハンガーにかかっており、生活感を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子での生活や杖を使用される方がほとんどなので「自立」とまでは言えない。		